

平成30年度 新潟市少年少女スポーツ大会野球の部
特別規則及び注意事項

- 1 規則は、2018年度版の公認野球規則及び競技者必携、新潟市野球連盟発行の学童野球遵守事項に準ずる。※投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。(親善試合も含む。)
- 2 チーム内に、公益財団法人日本スポーツ協会の公認軟式野球指導員、スポーツ少年団認定員、新潟市スポ柳都(ると)にいがた指導員登録者、新潟市野球連盟指導者講習登録者が監督・コーチ・スコアラーのうち1名以上いること。また、試合当日は資格保有者が1名以上ベンチにいること。
現在、資格所有者がいない場合は、**6月23日(土)**開催予定の「**スポ柳都(ると)にいがた指導員養成研修会**」において指導員登録証を発行するので受講すること。
- 3 監督会議・運営委員会議で説明又は決定された事項については、チーム全員に徹底させること。
- 4 試合方法
 - (1) トーナメント方式による小ブロックの優勝戦とし、3位決定戦及び東西地区の優勝戦は行わない。
 - (2) 1、2回戦で敗退したチームのために親善試合を行い、全チームが2試合以上できるようにする。
 - (3) 本大会を円滑に運営するため、下記のとおり制限を設ける。

5年生	イニング	時間制限	延長・抽選	コールドゲーム
準決勝・決勝を除く各試合	5回	試合開始1時間10分を過ぎて新しい回に入らない。	勝敗が決しない場合、最終回攻守の全員により、○×方式による抽選で決定する。ただし、準決勝・決勝は以下の通りとする。	3回以降15点以上、降雨の場合3回終了
準決勝	7回	試合開始1時間20分を過ぎて新しい回に入らない。	【準決勝】 制限時間内で延長戦を行う。	3回以降15点以上、5回以降7点以上の差を生じたとき 降雨の場合5回終了
決勝	7回		【決勝】 制限時間内で延長戦を行い、勝敗が決しない場合、タイブレークに入る。制限時間経過後、勝敗が決しない場合、延長戦を行わずにタイブレークに入る。タイブレークは最大2回とする。	
6年生	イニング	時間制限	延長・抽選	コールドゲーム
準決勝・決勝を除く各試合	7回	試合開始1時間20分を過ぎて新しい回に入らない。	勝敗が決しない場合、最終回攻守の全員により、○×方式による抽選で決定する。ただし、準決勝・決勝は以下の通りとする。	3回以降15点以上、5回以降7点以上の差を生じたとき 降雨の場合5回終了
準決勝	7回	試合開始1時間30分を過ぎて新しい回に入らない。	制限時間内で延長戦を行う。	3回以降10点以上、5回以降7点以上の差を生じたとき 降雨の場合5回終了
決勝	7回		【決勝】 制限時間内で延長戦を行い、勝敗が決しない場合、タイブレークに入る。制限時間経過後、勝敗が決しない場合、延長戦を行わずにタイブレークに入る。タイブレークは最大2回とする。	

※ あまりにも得失点差が生じた場合、監督の判断により途中棄権を申し出ることができる。

※ タイブ레이크

継続打者とし、前回の最終打者を1塁走者として、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決定しない場合は更に継続打順でこれを繰り返すこととする。

タイブ레이크は最大2回とする。

※ 中止及び中断について

- ① 試合実施の決定は、前日の午後4時にテレホンサービス(025-245-4189)で行うので必ず確認のこと。
 - ② テレホンサービスで実施決定となった場合は、当日の天候が雨天であっても、中止するか実施するか判断は、会場(野球場)で行うので運営委員は集合時間までに、必ず集合すること。
 - ③ 当日中止とする場合は、運営委員・会場責任者・審判員・スポーツ振興課による協議のうえ、決定する。また、翌日以降の試合日程についても協議することとする。
 - ④ 落雷等で危険が及ぶ恐れがあると思われる場合は、運営委員・会場責任者・審判員の判断により速やかに試合を中止し、安全な場所に避難させる。
 - ⑤ ④のほか 降雨等で試合が中断された場合、運営委員は中断時間を計測し、試合時間に含まないこととする。
- 5 出場チームは試合開始予定時刻20分前までに、運営委員にメンバー表4部及び試合球2個を提出する。(控え選手もメンバー表に載せること。記載のない選手は試合に出場できないものとする。) ※欄外に当日チーム内にいる「指導者講習登録証」登録者の氏名及び登録番号を記載すること。
 - 6 ベンチは組み合わせ番号の若いチームを一塁側とする。既設のベンチがない会場は白線で表示する。
 - 7 ベンチに入れるのは監督1名、コーチ2名、スコアラー若しくは補助員1~2名(夏季のため選手に給水等行うことを認める)及び登録された背番号(主将を10番、監督を30番、コーチを28番、29番とする)をつけた選手に限る。
 - 8 抗議ができる者は、監督と当該プレイヤーのみとする。監督又はコーチが同一イニングに同一投手のところへ2度行くか、または行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。
 - 9 守備側のタイムの回数は、5イニングの試合も7イニングの試合と同様、3回までとする。
 - 10 捕手は、フェイスマスク・プロテクター・レガース・ヘルメット・ファールカップを、打者、次打者、走者及びコーチはヘルメットを危険防止のため必ず着用すること。また、バット・ヘルメット・フェイスマスク・プロテクター・レガース等は全て連盟公認(JSBBマーク入り)の物を使用すること。なお、投球練習等、捕手が投球を受けるときは、捕手の防護用のヘルメット及びフェイスマスクを着用しなければならない。ヘルメット及びフェイスマスクがない場合は、立って行うこととする。(投球練習を受ける捕手を監督又はコーチが行うことを認める。)
 - 11 試合はスピーディーに行う。(攻守交代はかけ足で)シートノックは行わない。
 - 12 守備の時間が長い場合(概ね10分以上)には健康維持を考慮し、審判の判断で給水タイムを設けることとする。なお、給水タイムは試合時間に含まないこととする。
 - 13 帽子は必ずかぶり、スパイク(金属製スパイクは禁止)又は運動靴を履くこと。
 - 14 変化球は禁止する。

15 礼儀に反するような応援はつつしむこと。（鳴り物、携帯マイクの使用禁止）

16 大会運営協力義務事項

(1) 試合の結果報告

運営委員は試合終了後、試合結果を本部に連絡すること。

(2) 試合終了後、両チームは会場整備及び次の試合のある場合には試合の準備（ライン引き等）を行う。

(3) 参加チームは帯同審判を2名登録し、両チームの帯同審判は指定された試合の塁審を必ず行う。（棄権チームも塁審を出すこと。）

※帯同審判員に登録された方で、ルール等が不安な場合は7月7日（土）に開催される審判講習会を受講してください。ただし、審判講習会を受講しても少年少女スポーツ大会の指導者資格となりません。（新潟市野球連盟指導者講習登録証の発行を行ないません。）

(4) ボールボーイを各チーム2名（児童又は保護者）程度出す。仕事内容は審判の指示に従う。（帯同審判及び球審のミーティングを必ず行うこと。）

17 親善試合（敗者戦）の運営について

(1) 試合について

- ・1日目に負けたチームは、親善試合に参加する。
- ・参加チームの会場は、トーナメント表に従う。
- ・勝敗の報告はしなくてよい。

(2) 審判について

- ・該当チームの帯同審判（4人）で行う。（球審を含む。）

(4) 運営委員について

- ・該当チームの運営委員が、親善試合の運営委員として各会場の会場設営、得点記入やボール管理含む全ての運営を行う。

(4) その他

- ・試合時間は、6年生が1時間20分（準決勝・決勝は1時間30分）、5年生が1時間10分（準決勝・決勝は1時間20分）とする。
- ・試合会場において、出場チームが3チームの場合は、2試合目と3試合目の間に休憩（45分程度）を入れる。
- ・試合球は、各チームが用意する。